



東京金山会通信 No.51



東京金山会のページにアクセス!

問合せ

東京金山会 広報担当 (藤山善夫)
☎080-5525-0435
✉fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp

東京金山会第64回総会「ふるさとを語る集い」開催

令和5年6月18日(日)アートホテル日暮里ラングウッド(東京都荒川区)にて東京金山会第64回総会を開催しました。3年ぶりの開催となった昨年来訪者を大きく上回る140名超の開催となりました。佐藤英司町長をはじめ、多くの町関係者、ご来賓の方々のご来訪をいただき、盛大な開催とすることが出来ました。

懇親会では永山茂樹さんの歌謡ショー、船橋市山形県人会演芸部の舞踊が披露されました。佐藤町長・高橋会長にも積極的に場を盛り上げていただき、たいへん多くの笑顔と会話が溢れる時間となりました。ご来訪いただいた全ての皆様に感謝申し上げますとともに、来年度の開催をより良いものとするために、役員一同、取り組んでまいりますので、引き続き、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



- ①会場の様子。昨年を大きく上回る140名を超える方々の来訪をいただきました。
- ②佐藤英司町長からの祝辞
- ③今年も物産ブースを出展いただきました。「よしもとカレー」などラインナップも充実し、たくさんの方々の来訪者でにぎわっていました。
- ④～⑦総会の様子

No.209 「森の子ども図書コーナー」

交流サロンぽすと内



『こっちとあっち』

(作) 谷川俊太郎 / (絵) 樋勝朋巳 / クレヨンハウス

ぼくには僕のあたりまえの場所が、でもあっちにもあっちのあたりまえの場所がある。

こっちとあっちとは違うものがお互いおおくおおく、嬉しくなったり困ったりしちゃう。知らない場所にいくことはとても怖いけれど、歩き出す一歩が重いけれど、勇気をもって。

こっちを知ってもらってあっちを知ろう。

——知ってみようかな。



※()内作者名

やさしさを忘れぬうちに(川口俊和) / 慈恵大学病院の食べる「免疫力」(東京慈恵会医科大学付属病院 栄養部) / 一生病気にならない免疫力のスイッチ(佐藤俊彦) / 歩トレ(今村大祐)・・・他5冊

「図書室だより」

中央公民館内 9:00 ▶ 16:00

『ドールハウスの惨劇』(遠坂八重/詳伝社) 学内便利屋にして正義感の強い秀才、滝蓮司に目を伏せたままある依頼を口にした少女がいた。藤宮美耶:学内ファンクラブが存在するほどの存在である彼女が蓮司に頼んだ事は家庭に関する事だった。これを機として彼はその特異な家庭の真相とおぞましい事件に相まみえることとなる...



『絵と図でよくわかる 睡眠の科学』(中村真哉/ニートンプレス) 日本は寝不足の国と言われており、平均睡眠時間は、先進国よりも一時間以上も少ないのです。不足が積み重なると「睡眠負債」になると日中のパフォーマンスが低下し、心身の健康も脅かされてしまいます。そんな睡眠が持つ役割と疑問、そして大切さをこの本で紹介しています。



今月は10冊!

かわらばん「やんばい」

地域おこし協力隊 本間 真生

～金山町の子ども遊び場特集～を発行しました!



こんにちは、協力隊の本間です。6月にかわらばん「やんばい」を発行しました。今回のテーマは、金山町の子ども遊び場はどのようなものがあるのか?と気になり調べました。支援センター・森の子ども図書に行った時、親御さん達から「子ども達がめいめい遊び場」家近くの同世代の友達がいないけど、ここに行けば友達に会える」「兄弟がいて1人だけになかなか目をかけられないけどスタッフさんが見てくれるので楽しんでいる」という声を聞きました。子ども達がやりたいことをのびのびでき、子育てを親だけでなくスタッフさんから助けってもらえる素敵な場所だと感じました。

また、今回各地区の公園も巡り、町内には22箇所公園がありました。(本間調べ) グランコ・滑り台・広場のパターンが多いこと、そして最近子ども達があまり遊んでいないことを知りました。少子化や子ども達の遊び方が変化しているのかもしれませんが、せっかく自然がたっぷりあるのに外遊びをしない・できないのはもったいないと感じます。

今回のやんばいの表紙は、「魅力的な公園、子ども達がめいめい遊び場が欲しい」というママ達の声を聞き、あったらいいなという未来の遊び場を描いてみました。今回紹介した場所や公園をご覧くださいぜひ遊びに行っていたら嬉しいです。

最後に、私事です7月から産休・育休に入らせていただきます。引き続き金山町には住み、育休明けに残りの協力隊の任期をまっとうしたいと思っています。一旦お休みに入りますが、これからもよろしくお願いします!



▲やんばいの表紙

ふんばい

金山杉俳句会報 第四七六回

一斉に若葉明え出づ水豊か 星川 キエ子
下駄箱の天地換えして列々霜 岸 昭子

春眠に現れ出でし西瓜畑 高橋 洋子
人恋し都忘れを植え替へし 鶴沼 よし子

五月晴萌葱に映ゆる庭の木々 阿部 一代
沢浴いに房の枝垂るる藤の花 栗田 弥超

鯉懺夕陽の温み畳みけり 七日町 柴田 栢静
蔓延れる亡き夫愛し九輪草 新緑の杖を頼りに多賀の城

青き踏む社はの下僕となる前に 早六月少し明るさ妻の顔

防波堤陽を存分に地虫出づ

かねやま紅風会

八十の春グランドゴルフ誘はれし 荒屋 関 喜美子
満開の齢も忘れ花一日 荒屋 阿部 勝子
亡夫と夫婦桜に思いはせ

芍薬を手折れば見へし母の顔 菅越 庄司 けみ子
和やかな初夏の仲間とアルバイト 葉桜やすき間の空の青さかな
釣舟や沖の大漁夏の海 紅ほのか牡丹散はめ地を染めし
空腹の昼餉をそそる冷奴

藤の花今を盛りと色深め 七日町 青柳 キエ子
静けさや法話聞ける六月空 観音へ続く細道五月閑

野に一步大地彩りあえの風 新緑の杖を頼りに多賀の城

たそやかに悠々舞や鯉のぼり 青葉風上台峠の郷景色

早六月少し明るさ妻の顔